

# 令和4年度 中心市街地活性化つながるまちづくりプラン（盛岡市中心市街地活性化基本計画）のフォローアップに関する報告

令和5年7月  
盛岡市

○計画期間：平成30年4月～令和5年3月（5年）

## I. 中心市街地全体に係る評価

### 1. 令和4年度終了時点（令和5年3月31日時点）の中心市街地の概況

(1) 平成30年3月に策定した、国の認定を受けない市独自の「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」に基づき、「商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地の形成」、「暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成」、「盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成」という3つの方針のもと、各種事業を実施した。国の認定を受けた「第2期中心市街地活性化基本計画」から継続する事業も含めた全78事業のうち、完了した事業が16事業、実施中の事業が59事業、未着手の事業が3事業となった。

(2) ソフト事業は、全ての事業に着手しており、完了（7事業）又は実施中（49事業）となっている。令和4年度は、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業が中止や規模縮小となり、計画の進捗に影響した。

(3) 施設整備事業は3事業が未着手・未実施となっているほか、新型コロナウイルス感染症や原油・物価高騰等の影響により、一部の事業に遅れが生じていることから、関係機関との連携等を図りながら、継続して事業を推進していく必要がある。

また、国が募集する「ウォーカブル推進都市」に賛同していることから、公民連携により「居心地が良く歩きたくなる」空間づくりに取り組んだほか、令和元年度末に策定された「盛岡市立地適正化計画」とも連携しながら、社会構造の変化に対応した持続可能な中心市街地の形成を推進していく必要がある。

(4) 令和4年度の年間観光客入込数については、3,147,638人（前年比120.2%、529,883人増）となり、新型コロナウイルス感染症の拡大以前の水準には達していないが、盛岡さんさ踊りやいわて盛岡シティマラソンなどのイベントが感染症対策を講じながら開催されていることなどから、回復傾向にあるものと思料される。

中心市街地の通行量については、計測日における天候の影響により、13,453人（前年比93.5%、936人減）となり、目標値には至らなかったが、新型コロナウイルス感染症の拡大や原油・物価高騰による影響が懸念される中で、効果的な集客や中心市街地への来街者の増加に繋げるため、商店街イベント等の開催内容の工夫や新たな賑わい施設等の整備が行われたことにより、同感染症の拡大下であっても、中心市街地の通行量の推移は横ばいの傾向を維持することができたものと考えられる。

中心市街地の居住人口（令和4年9月末時点）については、13,039人（前年同月比で99.8%、23人減）となっており、目標値には至らなかったものの、マンション建設が進んだことなどにより、ここ数年は横ばいで推移している。大型な拠点施設が相次いで撤退した内丸地区・河南地区において、回遊性の低下などの影響が出ているが、複合商業施設monaka（もなか）の整備や令和4年10月の盛岡バスセンターの開業により、街なかの新たな魅力が生まれ、居住者の増加に繋がることが期待さ

れている。

全体で見ると、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて計画どおりに進捗していない事業が生じているほか、「中心市街地の歩行者・自転車通行量」「中心市街地の居住人口」「盛岡市街の観光客入込数」についても、いずれも目標値に達していない状況であるが、商店街における工夫を凝らしたイベント開催のノウハウの蓄積や、新たな賑わい施設の整備、ニューヨークタイムズ紙効果、新型コロナウイルス感染症の類型見直しなどにより、観光客入込数も回復基調にあり、令和5年度以降における中心市街地の活性化に向けた好条件が整いつつあることから、今後も継続して、ソフト・施設整備の各事業を着実に実施し、住みやすく賑わいのある盛岡の魅力の向上に取り組んでいくことが重要である。

## 2. 令和4年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成30年から令和4年度までの5年計画のプランであったが、大半の期間において新型コロナウイルス感染症の影響を受け、プランにおける各事業も当初の見込み通り進まなかったものが多かった。そのため、令和4年度取組成果および当プランの5年間の成果を正確に判断するのは難しいが、結果として3つの目標値がいずれも達成未達でC評価となったことについては、コロナ禍の影響以外にも未達の要因がないかきちんと検証することが必要と思われる。

新型コロナウイルス感染症の5類移行やニューヨークタイムズ紙効果等もあり、今後はインバウンド等の観光客の増加が期待されるが、一過性のブームではなく継続的に需要を取り込むためには、関連事業者や旅行者の意見等をもとにした観光施策を推進するとともに、一方でオーバーツーリズム的な要素への対策（安全な歩行空間の整備や観光客の危険な行動に対する注意喚起方法など）についても検討も進めていただきたい。

また、中心市街地が活性化するには、そのエリアでの消費活動が活発であることが必要であり、交流人口だけではなく居住人口の増加（維持）も不可欠である。市内中心部では今後もいくつかのマンション建設が見込まれているが、長期的に中心市街地の居住人口の増加（維持）を図るには、買い物のしやすさや公共交通機関などの利便性を高めることが必要である。

今回、新たに第2期プランが策定されるが、市外から人を呼び込むという観光的な視点だけではなく、中心市街地を市民にとっても訪れやすいエリア、住みやすいエリアにするという視点を持って策定を進めていただきたい。

## Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し
商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地の形成	中心市街地の 通行量 (歩行者・自転車)	16,353人 (H30.3)	17,500人 (R4)	13,453人 (R5.3)	C	④
暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成	中心市街地の 居住人口	13,367人 (H29.9)	13,500人 (R4)	13,039人 (R4.9)	C	③
盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成	盛岡市街の 観光客入込数 (日帰り・宿泊者数)	4,250,000人 (策定時基準値) 4,199,959人 (H29実績)	4,467,000人 (R4)	3,147,638人 (R4.12)	C	- (※)

#### <基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
  - ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
  - ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
  - ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- (※) 盛岡市街の観光客入込数は、新型コロナウイルス感染症の影響により現時点での目標達成見通しを予測することが困難であることから、今回の見通しを「-」とした。

### 2. 目標達成状況の理由

#### (1) 中心市街地の通行量

新型コロナウイルス感染症の長期化による全国的な自粛ムードの影響を受けつつも、当初は計画されていなかった新たな生活様式を取り入れたイベントの実施など、落ち込んだ人の流れや店舗の売り上げ回復に向けた取組により、事業者間連携の新たな創出や、コロナ禍におけるイベントスタイルの構築が活発に行われていることから、同感染症拡大の影響が最も大きく生じていた令和2年度の実績12,690人と比較すると763人の増加に転じており、中心市街地通行量は回復基調にあるものと思料される。

しかし、令和元年度までは計画どおり順調に進捗していた各種の取組についても、同感染症の影響により、計画どおりに進捗していない事業も少なくないことから、目標に対する実績値は未達となったもの。

#### (2) 中心市街地の居住人口

中央通エリアにおける大型な集合住宅の建設が盛んに行われており、中央通三丁目では95人（前年比107.3%）の人口増となっているものの、他地区での人口減少により前年実績13,062人を23人下回る結果（前年比99.8%）となったことから、目標に

対する実績値は未達となったもの。

### (3) 盛岡市街の観光客入込数

盛岡さんさ踊りやいわて盛岡シティマラソンなどのイベントが感染症対策を講じながら開催されていることなどから、年間観光客入込数については、3,147,638人（前年比120.2%、529,883人増）と回復傾向にあるもの、依然として、前年度から引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、インバウンドの消滅、旅行の自粛要請、各種イベントの中止や規模の縮小等があることから、目標に対する実績値は、未達となったもの。

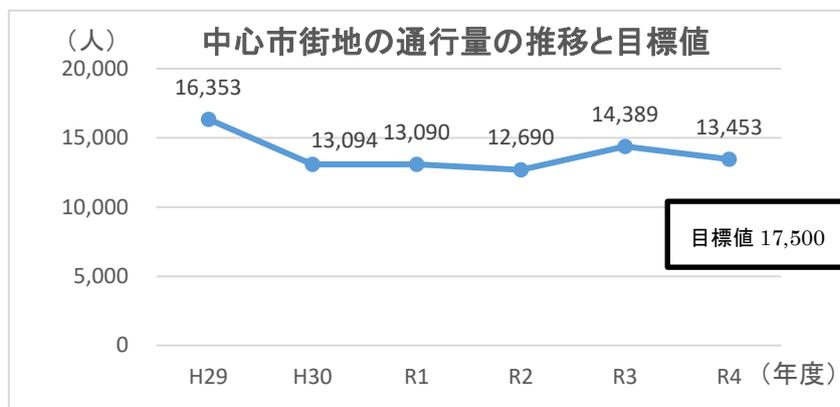
#### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

##### (1) 基本方針1 商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地の形成

事業：a 商店街の力を活かす b 商店街の賑わいをつくる

指標：「中心市街地歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方はプランP27参照

#### ■調査結果の推移



年度	(人)
H29	16,353 (基準年値)
H30	13,094
R1	13,090
R2	12,690
R3	14,389
R4	13,453
R4	17,500 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査（毎年3月下旬に実施）

※調査月：令和5年3月26日（日曜日）、27日（月曜日）

※調査主体：盛岡まちづくり株式会社

※調査対象：歩行者及び自転車通行者、8地点（数値は加重平均）

#### ■目標達成に寄与する重点事業の進捗状況及び事業効果

##### ① 商店街等魅力強化支援事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	複数の商店街等がエリアごとにテーマを設定し魅力強化のための研修会を開催する際の講師招聘経費を補助する。
事業効果及び進捗状況	令和4年度は、令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、研修会の実施に至る商店街等がなかった。 令和5年度以降は、感染症法上の位置付けが5類に移行したことを踏まえ、商店街等における積極的な実施につなげるために、コミュニケーションを図りながら、研修会の開催に向けてのテーマ検討や課題抽出を継続して行う必要がある。

##### ② 中小企業人材育成支援事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	中小企業の役員・社員が、中小企業大学校において開催する研修を受講する場合の受講料の一部補助を行う。
事業効果及び進捗状況	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って、対象となる研修のオンライン化が進められ、市内中小企業者が対象の研修を受講しやすい環境が整備されたことから、「東北大学地域イノベーションプロデューサー塾」1件、「中小企業大学校仙台校」2件の合計3件の補助を行い、市内中小企業者の経営力強化に寄与した。

### ③ 商店街イベント事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	商店街等が主催するイベント等に対し、盛岡市商店街連合会を通じ盛岡市がその経費の一部を補助する。
事業効果及び進捗状況	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、市内商店街イベントの一部が中止となったものの、盛岡市商店街連合会を通じて5団体に補助を実施し、商店街の賑わい作りや地域コミュニティとしての商店街機能の維持が図られた。

### ④ 商店街活性化支援事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	①商店街をステージに、市民が主体となって企画・実施する事業②地域住民や小学校と連携し、商店街を花や木で装飾する事業③誰もが利用しやすい環境整備のため、商店街にベンチ等を設置する事業に対し、盛岡市商店街連合会を通じ盛岡市がその経費の一部を補助する。
事業効果及び進捗状況	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、市内商店街の取り組みの一部が中止となったものの、盛岡市商店街連合会を通じて、ストリートステージ事業3団体、フラワーコミュニケーション事業1団体、ベンチ等設置事業1団体に対して、補助を行うことにより、魅力ある商店街づくりや地域の活性化が図られた。

### ■今後の対策

今後について、依然として、新型コロナウイルス感染症の拡大や原油価格の高騰等による物価高騰の影響が懸念される状況下にあるものの、同感染症に関する行動制限等の規制緩和や令和5年1月のニューヨークタイムズ紙において、盛岡が掲載されたことに対する反響など、中心市街地の活性化や賑わいに良い影響をもたらす材料が数多く存在していることから、引き続き、商店街等イベントの開催内容等の更なる工夫により、効果的な集客につなげるとともに、日常生活でも中心市街地への来街者を増加させるため、近隣地域から中心市街地までのアクセスの向上や、商店街等に所在する事業者の経営力の向上など、魅力ある中心市街地を形成する事業を総合的に実施することで、年間を通じた交流人口を増加させ、目標達成を目指していく。

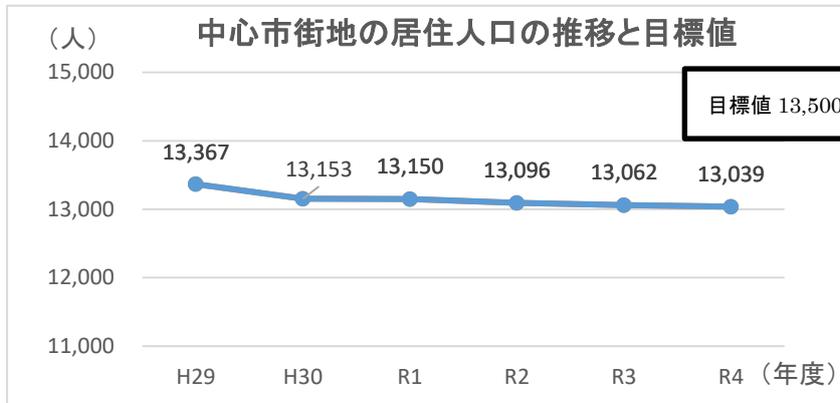
また、国が募集する「ウォークブル推進都市」に賛同していることから、公民連携により「居心地が良く歩きたくなる」空間づくりに継続して取り組み、歩行者中心のまちづくりを推進し、中心市街地での回遊性を高めることで、賑わいの創出につなげていく。

(2) 基本方針2 暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成

事業：c 住みたくなる環境をつくる d 訪れやすい環境をつくる

指標：「中心市街地の居住人口」※目標設定の考え方はプランP28を参照

■調査結果の推移



年度	(人)
H29	13,367 (基準年値)
H30	13,153
R1	13,150
R2	13,096
R3	13,062
R4	13,039
R4	13,500 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳  
 ※調査月：令和4年9月（各年9月末日時点）  
 ※調査主体：盛岡市  
 ※調査対象：中心市街地の居住人口

■目標達成に寄与する重点事業の進捗状況及び事業効果

① 子育て応援プラザ運営事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	室内遊び場やイベントスペース、託児機能付きオフィス、カフェなどを備えた、子育て応援施設（マ・モール）を公民連携により運営する。
事業効果及び進捗状況	緊急事態宣言の発出により、中止となる事業もあったが、引き続き、子育て世代への支援を行った。 室内遊び場やイベントスペース、オフィスなどを備えた、子育て応援施設（もりおか子育て応援プラザ マモール）を公民連携により運営した。

② 盛岡バスセンター整備事業

事業完了時期	令和4年度【完了】
事業概要	平成28年に閉鎖した旧盛岡バスセンター所在地において、民間活力の導入を図りながら新たなバスセンターを整備する。
事業効果及び進捗状況	「バスターミナル機能」と「賑わい機能」を持つ安全・安心な施設として整備し、バスターミナル機能を維持することで、中心市街地へ訪れやすい環境を作ると共に、河南地区を中心とした中心市街地の賑わい創出につなげた。 なお、建設工事の工程に遅れを生じていたが、令和4年10月4日に開業を迎えたことにより、河南地区における新たな拠点施設としての利活用が進められている。

## ■今後の対策

今後について、安全な歩行者空間の確保など、市街の居住利便性の向上につながる事業を着実に実施するほか、子育て応援プラザ運営事業など住みやすいまちとしての魅力向上につながる取組を強化していくことにより、都市機能が充実したコンパクトで魅力ある中心市街地の形成を図る。

### 【参考】中心市街地の状況に関する基礎的なデータ（各年度基準日：1月1日）

（中心市街 地区域）	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度 （計画前年度）
人口	13,278	13,324	13,552	13,461	13,367
人口増減数	246	46	228	△91	△94
自然増減数	△10	△16	△21	△37	△33
社会増減数	100	80	73	△48	△28
転入者数	918	856	917	814	836

（中心市街 地区域）	平成30年度 （1年目）	令和元年度 （2年目）	令和2年度 （3年目）	令和3年度 （4年目）	令和4年度 （5年目）
人口	13,193	13,145	13,075	13,004	13,012
人口増減数	△174	△48	△70	△71	8
自然増減数	△85	△64	△84	△49	△82
社会増減数	△87	△15	△50	14	31
転入者数	805	808	742	788	821

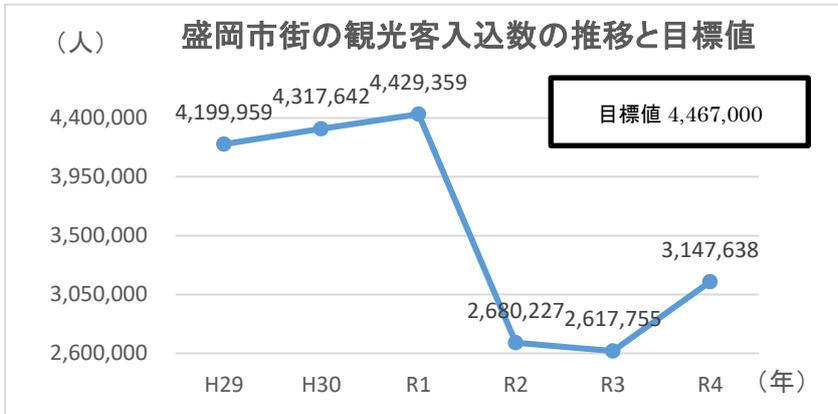
※人口の基準日は当該年度内の1月1日とし、増減は基準日前日までの1年間（1/1～12/31）とする。

（例）令和3年度の場合

人口：令和4年1月1日時点、増減数：令和3年1月1日～同年12月31日の増減

(3) 基本方針3 盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成  
 事業：e 城下町の魅力を発信する f 伝統と四季を発信する  
 指標：「盛岡市街の観光客入込数（日帰り・宿泊者数）」  
 ※目標設定の考え方はプランP29参照

■調査結果の推移



年度	(人)
H28	4,208,272
H29	4,250,000 (基準年値)
	4,199,959 (実績)
H30	4,317,642
R1	4,429,359
R2	2,680,227
R3	2,617,755
R4	3,147,638
R4	4,467,000 (目標値)

※調査方法：日帰り観光客入込数は近郊3インターチェンジ、バス事業者、JRの報告（任意）から、宿泊者数は市街地宿泊施設の宿泊者数報告（任意）から集計。  
 ※調査月：令和5年3月（令和4年1月～同年12月分の数値）  
 ※調査主体：盛岡市  
 ※調査対象：① 日帰り観光客入込数 盛岡 IC、盛岡南 IC、滝沢 IC、岩手県交通、岩手県北バス、JR 東日本  
 ② 宿泊者数 盛岡市街の宿泊施設

■目標達成に寄与する重点事業の進捗状況及び事業効果

① 盛岡おもてなし度UP事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	市、観光団体及び事業者等が連携して、観光誘客PRや、職域研修会などの開催を支援する。 遠来からの観光客に市を挙げて「おもてなしの心」で接することにより、観光客のリピーターや口コミなどによる観光客誘致を促進し、中心市街地の魅力の発信につなげる。
事業効果及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部職域別研修会は開催中止となったものの、観光タクシーパンフレット作製費の補助や観光セミナーを開催するとともに、ニューヨークタイムズ紙に盛岡が掲載されたことを受け、デジタルマップの機能追加や外国語版マップの作製を行うことにより、おもてなしの推進を図った。

## ② 盛岡さんさ踊りなど伝統的な四季の祭りの開催

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	盛岡の伝統的な祭りの開催などを通じて、盛岡の特徴的な四季の魅力を発信し、盛岡と盛岡を訪れる人とをつなぐ。
事業効果及び進捗状況	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、春の「大盛岡神輿祭」、秋の「盛岡秋まつり山車」（代替企画あり）の2事業が中止となったものの、同感染症の拡大防止を図り、工夫を行いながら各種事業を実施したことにより、計画の進捗への影響は、比較的軽微にとどまり、一定の賑わい創出が図られた。

## ③ 「ゆかたのまちもりおか」推進事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	毎年夏の約1か月間、協賛店をゆかた姿で利用すると様々なサービスが受けられるキャンペーンを実施する。 ゆかたで街を回遊することを楽しめる街にすることで、華やかさや賑わいを創出するとともに、商店街を中心とした協賛店のサービスを利用するきっかけをつくり、商店街の活性化を図る。
事業効果及び進捗状況	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、実施事業の見直しを行った上で、一部事業を除き、概ね予定通り事業を実施することにより、商店街の活性化を図った。

### ■今後の対策

今後については、依然として、新型コロナウイルス感染症の拡大や原油価格の高騰等による物価高騰の影響が懸念される状況下にあるものの、同感染症に関する行動制限等の規制緩和や令和5年1月のニューヨークタイムズ紙において、盛岡が掲載されたことに対する反響など、中心市街地の活性化や賑わいに良い影響をもたらす材料が数多く存在していることから、引き続き、ポストコロナにおける感染症対策を講じたイベントの開催やインターネット環境の充実、キャッシュレス決済等デジタル化への対応など利便性を向上することにより、観光客などが安心して訪れやすく、便利で魅力的なまちづくりを推進するとともに、市街地を回遊させる取組を総合的に実施することで、中心市街地全体に経済効果を波及させていく。